

沿岸域の課題と対策は

関係機関と連携し取り組む



みやがわ のりみつ 議員 宮川 徳光

要因とし、漁業資源や沿岸環境に幅広い影響を及ぼすと考えられ、全国的にも重要な課題となっている。

問 近年、県下的にシラス漁が不漁と聞く。
また、沿岸域の藻場の減少は著しく、漁業や海の環境に大きな影響を与えている状況だ。

本町における課題とその原因、及び対策を問う。

答 今西海洋森林課長

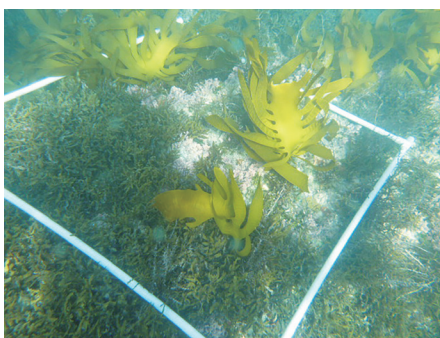
町内の漁業を取り巻く課題として、まずは海水温の上昇が挙げられる。

これは、世界的な気候変動による気温上昇などを

本町でも、海水温の上昇による魚種生息域の北上により伝統的漁場での漁獲量の減少や、稚魚や卵の生存率低下による資源の減少、さらには海藻類の減少、ウニの異常発生、養殖業環境などへの影響など、沿岸漁業全体に種々のリスクが生じている。

このため、本町では、県を含めた各関係機関や地元漁業者と連携し、海水温データの徴取や水質検査の実施など、漁場環境の把握に努めると共に、引き続きアカアマダイなど種苗放流による海洋資源の増殖や、藻場再生事業を含め町内漁場環境保全の

取り組みを進めている。その一例として、現在、田野浦海域にて、地元漁業関係者と共に藻場の保全・再生活動に取り組み中。また、昨年度より浮津漁港海岸にて、新たに鉄鋼スラグ製品を活用した藻場造成の現地実証実験にも取り組んでいる。



藻場再生事業の一例



藻場造成現地実証実験の一コマ

住環境改善

入野松原支障木伐採の現状は

昨年度に続き
本年度も実施

問 入野県立自然公園と接する住宅や畑は、樹木が育ちすぎ、住環境が悪化しているとして、平成24年度に浜の宮、新町、万行の3地区区長連名で支障木伐採の要望があり、翌年度、新町地区に接する支障木を伐採し、松原再生として松の苗木が植えられた。

その後、順次、同様の作業を行うとした中、昨年度は万行地区にて支障木伐採が行われた。
この計画の現況を問う。

答 今西海洋森林課長

この支障木伐採計画については、本年度も昨年度に引き続き万行地区において実施している。

この他、支障木対策などの要望については、四万十森林管理署が引き続き

昨年度伐採場所の現況
(令和8年6月、入野万行)



取り組みを進めていく計画だと伺っている。

町としても、海岸林の役割りを果たし、広く地域住民から親しまれる入野松原であり続けるように、松原内の一斉清掃や松枯れ伐採後の松苗植樹など、地元住民参加型の事業も含め、今後とも並行して実施していく。